

2026年1月29日
静岡キャピタル株式会社
AKaFUJI Partners 有限責任事業組合

ディーブルー
「DeepBlue 1号ファンド」を設立
～社会課題解決と持続的成長を両立するインパクト投資を深化～

静岡キャピタル株式会社（代表取締役社長 茂野恵介）と AKaFUJI Partners 有限責任事業組合（運営会社：株式会社 AKaFUJI 代表取締役 服部将大・永原健太郎）は共同で、社会課題の解決と持続的な企業価値の創出を両立するインパクトスタートアップを投資対象とするベンチャーキャピタルファンド「DeepBlue 1号投資事業有限責任組合」を設立しました。

本ファンドは、技術領域や事業分野を限定せず幅広いスタートアップを対象に、研究開発段階を含む長期視点での投資・伴走支援を行い、静岡県の産業構造の変革と地域経済の活性化に貢献することを目的としています。

1. 設立の背景、趣旨

- 社会課題の複雑化や価値観の多様化が進むなか、企業には企業価値と社会価値の双方を創出することが求められています。一方で、社会課題の解決を志向するスタートアップの中には、短期的な収益化が難しく、十分な成長資金や支援を得られないケースも少なくありません。
- 本ファンドは、こうした課題認識のもと、新たな技術やビジネスモデルを通じて持続的なインパクトをもたらすスタートアップへの投資・支援を行い、静岡県の経済発展、産業構造の変革に寄与することを目的に設立しました。

2. ファンドの特徴

- (1) 長期視点での投資・伴走支援
 - ・静岡キャピタルが運営する従前のベンチャーキャピタルファンドでは取り扱いがなかった10年を超えるファンド期間を設定し、研究開発段階や事業立ち上げの初期から成長フェーズまで、長期視点で支援を行います。
- (2) 社会的インパクトの可視化
 - ・第三者のインパクトパートナーによる「インパクトレポート」を通じ、本ファンドが静岡県に与える社会的インパクトを定量・定性の両面から可視化します。

3. ファンドの概要

設立日	1月28日（水）
ファンド名※	DeepBlue 1号投資事業有限責任組合
ファンド総額	30億円
投資対象先	静岡県内企業や自治体との連携や協業を志向する国内外のスタートアップ企業
投資対象債権	普通株式、種類株式、新株予約権、新株予約権付社債など
出資者および割合	静岡銀行：99% 共同 GP（静岡キャピタル・AKaFUJI Partners）：1%
ファンド期間	10年間（最大5年まで延長可能）
1社あたりの投資額	投資ステージや事業内容等を踏まえ、個別に決定

※ファンド名には、富士山の青さ、駿河湾の深さ、ブルーオーシャン、ディープテックなどの意味を込めています。

4. 新規投資先の決定について

- 本ファンドの初回投資案件として、株式会社 Third Intelligence（代表取締役 CEO 石橋準也）への出資を決定しました。
- 同社は、東京大学の松尾豊教授が石橋準也氏らとともに設立した AI 研究・プロダクト開発企業であり、個人や組織のもとでそれぞれの用途に応じて独自に学習し成長する「遍在型 AGI（汎用人工知能）」の開発を進めています。
- 「遍在型 AGI」の技術を、地域社会のデジタル化や生産性向上、AI を組み込んだ価値創造型サービスの創出等に繋げていく活動を通じ、静岡県の経済発展や地域住民のウェルビーイング向上などの地域の社会インパクトに資するものと評価しました。